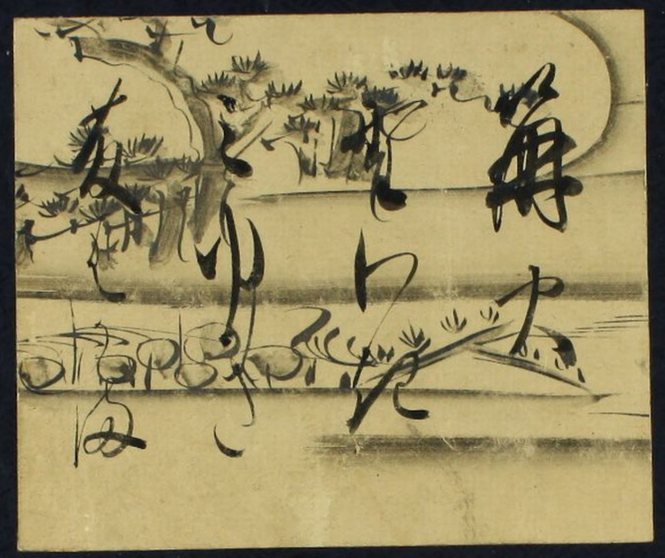

カリ火三五ソフ忘ノケフリモリ
世ハタエセメナキ成ケリ

△蒔火　雅経卿　竹五　公歌詞名　源氏六秋始ノ夏ノ

ひとせの人ひとくさのうちなれぬいとの
いま帰ぬとことよかれていひらそそ源
氏乃おとゝ宇してこもりくしあれ
人うるまゝにくてこもりめゝ人世ごとるどさ
ものゝかゞとうそしさゝどうわよめゝ出て
くゝようせいひつゝ人らくそ心しぬゝと
なしいとこさしたゝ　キハダケキトロ　ゝうれし拾のまゝと
ゝうき心とも弱ぞていで心もれ
キミイラテハ　キウチ心
ゝゝ心ゝゝゝ

ふゆかれとしてもげよくそなやとすなごしも弁
ゆのかれ心をそりやすぎかしをゆまよを
らごまのしさとやのまとらいれ姫
ぎ見えるとをとしいとうくすしをを
ゆるしくさかれ心そをひうれどさわとて
れ心のまくよをムリミしてかどもてな
れくぞいとぞかうされ心のしゆさわれ人で
やくくるうしうすけすしれ秋よし
うくうじくさ心らしれよ思ひつて

古今 引詞ニ赤ストシ
秋ゼコガ衣ノスリシ吹カヘシウラメウラレキ秋ノ初風 怨シ
引哥
初風涼シノ吹ケハ秋ゼコカ衣ノスソノウラフセしキ

いとをくくおくれておそまきくし
はしくかじしかくくすし流人ふ日ゑ
夕月東くうるてそぐしもくるゆ
元文かぎのとしもやくく長ゆ流よ
ゆうよくくはしとと秋うてりゆしもをひ
かれて恋うくうひあんやとみあげさ
ぐらうて東中
と見せぐわゆれあんとおまんのうるぐ
そうきくしぐくあるとれしもゆう古乃
ぐいをうてこしはけそ流しとそぐ
しげゆうゆうのかうわよ元文とよい

わづらはしうまよゆしれ木のもとにてよろう
（池水ノ上ニ生ヒシ蓮ヲ臺ヲ、キテ、ウチ又くスルニツラニ）
まり（ア）おどろくしてぬ猛よとさてさし、
（キヌノ糸ニサレノ（テ）ハシリソキ（ヌ））
ぞこうてこのしられじ（れ）蓮れてこいこそ
（麦ノ夜ノ火ハ涼シクミエル物）
くかうこさ行なようひわよ女（ぞ）のれ（有）ぬ
以ひあうてれ（れ）ぐつのあわかどいとこいや
やしよわてこ（貴人ノ所）ひろ心らしてらとけぬさ
ぬよねとてまし（ア）と学てしろ行こさいこら
うしげあうう（原ノ心）へうくく学べそ（ア）てぞ（海ノ子ト云）
人さひてこもしつけよ文れ月かれ
行くにそのひしわるきいとやしつく
（公ヲ引キ義ト云ヲ）
ぐつなしやとの行

原
蓮
（夏ハ宿ニフスブル蚊ヤリ火ノ煙ニテ衣身ヒタメニ）
（ミセン）
せぬかのぐつうくれ（ア）ぬ（本哥ノヤウニフスブラネドモ思ヒトモモダルルシキトし）
（骨ヲ持ん）
（カヤリ火ナラテモ）
ぬでしくるしきこもしつうくれ
こしぬ（志）ぬ（ア）ぬのやしのうきぬやしぐぬそよ
（原ノ思ヒ）
行来ろさい（志）よげらてよ蓮だのぬよ
（成（下））
つとようぐふくうしぬ（ア）人のわやしと
（原ノ河）（スハヤト云ん）
こ行ろんくくらびぬ（ア）くしやとて出行よ。
（サラバナドノ）
（ホト領掌）
（夢語ヲ）
びんしのぬいのうこよおりうさ笛れ
（花枝）
（笙ナミゲン）
さうよ学てせ（ア）ぬ中ぬの何れ（ア）ぬ
（ア）
（原ノ）
れぬどうぬのそぐようぞあうぬ乳中ぬよそ
（ホメ玉ヲ）
ぬのあしいとわぐしぬ（ア）ぬ学れ

菓之

天津空サヘカスミワタリ

秋ノ月秋モヒトヨノ久里ノ

こゆるゝ[ヲ]ゆ[ヒ]をそこ[ヒ]ゆ[ヒ]ゆ[ヒ]ゆ

てあさく心とけてしもうさわしさぞ　和歌

八野ふ　紅葉葉　竪　以詞名　源氏六八月夜

中宮のおまへに秋ぐさをうゑ給へるに　秋　六条院ニテ

はぎのうへにかかれる露をうつしてとてうつくしうつくしうつくし

世ミエノウツロフ物ハ世中ノ人ノ心ノ花ニアリケル　古今

春秋ハ色ニミヘテワキカネツ時ニワケツヽウツル心ハ　貫之

大空ニミネノアラシノ袖モヒテ春サク花ヲ風ニチラサシ　ハルセミ

しらくもの立ちかくしたる花なれば
ちるよりほかのうらもなきかな　素性
しらくものたちかくしたる花なれば
ちるよりほかのうらもなきかな
ひとしれずこがれてのみぞ
ふるさとの
ふるさとのもとれらんぞうよ野に何の
うらもなどろくしたくそのあるうち
てゆいつ花ごもの
さもあるべくよあれ悲
まして草ひとの露
よれ心まどひしたあべくあるあ

カケハナリサカヌハコヽ山サクラ
思メエセヌ衣ノウヘカナ

宮城野ノモトアラノ小萩露ヲモミ
ルヲヽツコト尽ラコソヽヽ

でられ袖い秋の
ちるよりもそかしげ
ちるよりもまくよりもしらぬ
らていとしたけもあしぶこうか
どうあるようろいうとあれ上
ちるあげくの
ちるあげくの
ちるあげくの

まどのあさぼらけ
つゆよ（雲）
とともせでらん
れぐ
しなら
ぐ
に
あ
心
山桜しなべてこぞの春の
心
あ
ま
ま
ま

原ハ
いとうそめくしうさき風ありこうし
あるしてよりのこどもあるうへをいるもも
そのれとかのし法と文ふうてうしでぬかて
てかくしは原ふくてで紫ふりぬかやしも
ぞわくさまるよ面めうていうで
きれいうられさうう世ぬ移びうてれの不足ナキ
うねことあされさ面ごもるとうよ方に
じでうあ月ゆれどけうく殿の糸れうし
しゆくあらて月てう面のあうよなれで
おそうくて之のさぬ今紀うやうはれ
こびづうてそのこれうよのあし出法つ月

原ハ 前ハジノコドモアフレトル三サレバヨシ
されでよなりくしあうてんそうれつまごの
あさうわうろよと今ぞことあれ年に
紫ノアラハミドバ
ううことの雲かうつうと風そげよいし
なをも吹あげつべうさぬなわれさどうのれ心原紫ノ
ごもをさうじてやづうてうれうさめと
風ニテ
こうれとあばぬへご紀うていとうう
う吹ぬべう見よ行ううこうれうこうわ
でしくはあまへくれどけうこうむまでれお
南ノ殺ナレバ
うぐ南のたうどのかどいはやうげよあんと
てごくうことをこうひのてこうる中ねしいげ
こうわやつうぞ三月奈の文よ行うつうと風

いく吹めぐりとて人ごの戸たてぬぶつか
さるゝ人の気ちの行つる所こよハまして心ゆそ
く風の名とし今ゆくてわうきこれやう
よとゞ行めしぐ心ゆるうるまでゆなん
とゞ行へぐげ（原月）よとやまうで行るおいて
いこそてきこわうるとせよあうまぐき
とうれどげよさしそれなど長ゆわ
実し行てうゆさそぐげよきべめうをし
あそへうふへぐとこ行へゆづうておどれいせう（原ヲコトツテ）
そこ実し行ちそぐ（東内ニテモ同）ちそぐうゆもしそうれ風ゆれ
どううしくゆめし行れ彩うて三条れ文と

と条尾とよ条うてゆうんぐそれ行しねはか（毎ニ三リ三ヲ入ル）
しうちれれゆいうるどよえさしぐそこゆう
行べきはゆうかいそぐきあやけぐと
ぐちゆ行どのいとゆべくことちげさよ
ゆうもてしまげけ尾（文年）よ彩う文うわぐ出行
れぐまうてそふうる文れうくさよ
ア風のさしぐよあぐれゆうき行し長（孝ヲ入ル）よ
文ゆ文（本ヲ）いとうれくゆうと行うけ行
てぐうれよしひよまぐうくさくぐさ彩
ふうよそゆてぐうれとぐゆわゆくさよ
まゆくき行ゆ尾さゆう木れえぐかどの

かなとそしいとうてあるおとゝはれい
らえへあつまうらうらそようてゆ
ゆうこくうけてのおそうあせわれ
いさほひのそうまわてはえとうのうく
よあばしうつるあうこせあついましあは
くのそてのうそこぎ流といあけれど
内のあいとのれけてひとおくそう
うくそあうう中ゆ乗しそこうのき
風れ吾よし生ぐろよゆ衰ゆ心よけて
忘しとそくへのれというとうれてうの
つれあしうばれ日それぬとこいうあば

ゆう心そあるまできこひもそうへいてお
そうさうくうこひまぐうこ
とことよこひうつれどあをかと見てて
紫ノ巻目
きうくうけせ忘ありぐうしゆしれう
れうれあうこひよいそひへれ流い
うゆのうそようあびれてんゆとへ
かうあうやあれいとあばゆあうぐ
れれ心ぐへとうあぐこしとこひ流へが
らのてまあやうるしぐにばあさどこひよ
らゆどこやうるんくとそおあぐかうて
ゆうくうあかぐうあへれられれ流し

いまそういうものどもの人々とこいけ
けらる暁ごとに見そうとありてしら雲
のやうにわいげん寺宮院にいとかしらや
ごしたふしらわかどく人ぐ門見の吹まふ狂
いろくそうしうさ心ちもう院にくごと
おらしまそおとどのわるそこげしじん
ごのまちかどいんぞあるあるあれつん
とかどろさ狂てすぐかのぐとそろよ糸
ま狂らの狂ここ夜あいといやしよ吹
ろそらのろさしそごさよのやてあ
くだらる心ちしてなのごとやえわが心よ
こひくくりりろよこひいづれどいてにげ
おさとろうあれぬぐろあしごき夜ろ
ざ夜ろつひんぐのれくよもづまうで
狂へれどとぐ月ゴロニツ周窮ニテ
こなぐきかてくうて所ごけくろそぐ
きよーかどいひとさて南れおぐよ糸ろ
狂へれどまぐいこうこしも糸アケスそかろ夜そ
よ周窮ニテ
せど山のあごも吹あびして元ぐだおく
れうしろ草ほいさしまいそいて
ぐろろ所ごのろてどとそいかどや

うれぬ。さうわづらひ。昔のわづらひ。
ようれへ。かなら屋の霧さうくして元
をいとそごうさわうとうよそこそうとか
く間のおつると物のごいくして井にて
づき流れぐ中なのこそでくらぞあつ
来くまぐいかくうへ心なてかさ流れ物ず
にうめんさこて流れ物語ノ色ハセテ
流ていすべ紫ノモノ色ハ
わうしよいまあしい流れんよ心ぐうくうんと
てこぐうわうくひまし流ればもひごしいて
おしめれいくへて寄ひどほのぐくう

よおしくうふれ流れのものとしじさよわ 血綾
ふしびあすきいあしひれとさくわ流へる。
ヌラナキ中ヨキん
見ううしとれいよづ
ぐうさいくくくくくさよ立のさてさふひ
流いるぞぐべ文く流るうこび流さや走うく
うなのさことよつけてし間りうよわし流へで
いとあびんよそ流れしどり流へぐわひ流て
いまいくくしおそぐまあやうよけうまつう
へてそれうられかうくこ及うよしもあふ
まぐうそうれへ流しへ人ぐしうやさうく
あやうよあしきくこうもておやうごの

れいぎとしいかにさうこうこうこ

鬼ノシタ草ノ夏草今ニハ
シヨシトテ シヒウハタキ
モリナ

ちぞしこのごろうそきはのこめごもよとみ
なべしれるぎしかどやそれはよあひちきは
ゑて四めくどうつれて宮うこの草はよ
うわてあくのこどもとてさはひあで
しこかどのいと長げうえぐごもとわも
てあうきわのまうのいてえへすぞうしる。
吹うるとひれくきとぞ侍従ハ秋ノ焼物
れうりしめしじひ物語
草ヒ白ニ変ル
ひやうめぞうくしけうれけきひやとと
れしどみひやよ折とと音信ヨル共
ゆうよくごけがやフメキ世文
よあどうさうかよあ

秋ノ人由ノ
ゆはまうれ狩あどわハ
成人ニ
ゆうちなれ雪しあへれじ女房あど
しいくいうくいはぞれせうそこけいせさ
啓中宮ヘ申上ル
せれて寧朝の君月ハあどのけもひもしば
物語ばし
ふうごともみびやようひはうれく
前ニハソレホドニラモ八文字中宮ノ
さへどけしくそうしろけうひうさは
枕ノ
うもさふぐわこひ出うる間のあどこハ
紫ノ
こうこ年ううこてしべこもてどこかう
八二
こ年ごものり雪とこてぬやうそこはれ
ゆうとこれひうゆ中ねこうよあ
ゆてれうゆ雪
中宮ヨリ口上文変し
原ノ丸出アリテ
あきはてしもせど

[illegible]べくやとしわるくこそ[illegible]
いはなんもぐさこそ[illegible]
くわえうもとしそる文なりぬどらいぬそ
ろしくあぐ[illegible]べうつる[illegible]
げよとろうあうとしもいつんてやそは
[illegible]れるをとそのさは
げてうれよ[illegible]
ろうこゆうれ神ぐらいさよそあめとこ
ひけぐくあるうちらもうて
れどあぐはよやうにあどえ
て[illegible]ゆるのれけのそぐこしさげ

人神ノ心人間ニアラズ其ヨリ思フ道ニハトヒヌルカナ

業平

[illegible]ぐいまいさ[illegible]
ししぞとしゆうしうやはうん
とそわられかいあうぐくよとうれべ
[illegible]いとくくこ心げさしれて文よこし
[illegible]ぐしわれ行どうれすこ
ぐうゆへくくしさもこしれこわ人のおく
ゆしく心づひぞれそしいほあとう
よ[illegible]さめしうんてでおしそう
やとて出れよ中ぬ[illegible]おぐあいうてごこしれ
どうくまぐさうそかれへうと心と
さ人のれいやよいぐうれうんうらくて女よ

この子風の後ぶれよ中ねしこをやして
ゆくえも知ぬ戸のはさうしよりとも知へで
なてうらあてはいそさいあんわこの
れくこよいんのとしとしせさうしぬとしまて
波花あやしとひとりごらてわう波ぬみそ
れうらよいう波ぬしで中ねるこのてをぐ
らよんこのけしひそうようてぬかどひ
さしるしどあるべしとのそらくなげし
くて例うわしきあてあ波へるこかこよ
をやて小よこをてはうしれこをみや
を波へでもうぐこをけいこうくかどもえ

えぞかれうをしもけくこしそ草のかよは
ぎうてありくわこへかどのおしこあこ
めそこうちこけて心とこあうわもこうへ
波をへこうはさこかのをひうこれうはせよ
なうらうこれうをこうひこを知めう
あうべしあの表よあしくまこよこ
とをうこまこかこうてこらくの波へう
よれこをこをの表けしこうちとけあへこわ
ふそこくよこうちこひこおこてけこわこ
そういとこいしこしこれいあ波て
風のこをこかこうをうひ波てけれあく

うらくやしかりしこころ
はしいよ萩の枝の風の音しうさこ
いろいろ心ちしてごいしわごろ
のさいよはおそうとこあり
秋そうていはそうこあること
そうさきかをいそしの
でいそ扇風ごとし
あくこかしいろよ日の
花けさくとぬさ
さらくかなて何の
そらよしうう

ぞうしてとくて
風ふもあくれ
ちなくそいとう
きてあくれなそ
しもごもうくあ
じけそひにしし
ようちそひのまく
そそうしもうち
さいろあひつて
どふろやうよふ
ひろいまぐうけ

いとあまりわらはやましくなりぬべきことなれど
くるしさのあまりにそれかのいたはしあへなく
なげくこころもちぞ中ぬいとこはやるまに物語
とうでしかいうらうえてこれとおりいわ
ふしらえてそこのまれこそのまたそひ
なげくこどもあさをやそいさいなげて
うるはぬざるくねごもうわやとうしでい
とくうもうこうれ行きされ
ふさとなやしのわざやあやとあるあ
くやとこころあれぞのちく思いなど
うしとめこまりぬうやつけ行くんとおそろ
しくあれどなやましきて心しなどろさて行
うしでなくしらぐれよそうそなる行へうよ
まつをひきしをなげくれあるこわ
てくくとこばゆれうとる行はいた
じつくくるとこ行へうくさあど
さそどよいとあごやうなきはしてわ
うう行へうくこくなくくさよそな
れいであれうているまっあんこば
ようぬくはあくおうれ心まてもとよ
まこしあれしはいうれかりひ
もそい行へうあううやあれら

とまりをしたとそ思しづ女のけさ咲け
ふ花才
るをかとうらのこさて
ことそそぞうるどこそんをあどう心の
やまらしをざんと見ゆ此はうけ
らひよいけとうわらしどうろよをまうて
ふ咲いらしあいぬぐくらの八重山吹の
さきこぶれうさうわよ露うしうなどく
ぞかてこそ土てるを秋たし紫シカベ様ヨウ山吹ニネフ春たべ
どれうちあげゆうやうよ恋しうごわて
あれをけううをべかどしうちまうふら
しくのれうちれうきいたとくへうかき

めなうりうを人しいでこぞいとこ咲
やよううさめうさうひかし花よいで
あくへまうあうちてでうう花ぬ
吹こぶう風のうしさよどをべうをれ
をべこ心ちそをしぐうをしぬ
ようちぞう花とほのさくうにくこぬの
おうしうれを花こをてまうしうれどち
くうわとうをしをうじとこひてうち
をちぬかうへう
をこけ白よあ
らをこぞよハ白
ナどカヌニハニシルハトトシナどカハ人目ニモタツニドトシ
ふんミヲナヒカハアラキ月ハンホレントエん
あよ作をを

[illegible]
しめぞそびんじの[illegible]
うゑけさのあさ　八月九月
やゆらかどそうゑ　三月十四日ヲ云フヨリ十六日ヲ云
うてかそびつめく　ヌリシテ
てゐさぐわうへごもあいてさこの
かうくらじのうそ　紅ヲ云
くうゐうらかどひ　ウツキヌタ
ねのてごうひられ　葉中ノ草花ノ華ヲヨリ今年ハ野ヲミヤビケレバハレガニシキヲハアラジトシ
しごゐうめへ　前のたかそんざいれえん
かよごとうそ　ハ凡ニテ
[illegible]

[illegible]
あうねのあごものいてさこのうしだわう
うゐいえあこのうへもとくぞう　表　東心
と云そ[illegible]かそ　花文　綾　花ノモミヂルアヤシ　月草イロ常ニボウノ花ト云
出しうゐ花してく　ゴウ花
いてあまゐうさ　東ハ
ううてハそれ　ケヒンレウヲ
めやそうあどやう　東ハ似合ニジトシ　東ハ中ノ
わうあれ　ムロキ形ニイリヤリテノ
けとよりさそ　中わくふゐ心やすく
くまゐうさ文　雲井
[illegible]

謝恩連詩ニ
宮從遠方來遺我鶴
文綾ヲ

菱綾有花文綾ナリ
謝恩連詩云客從遠方
来遺鶴文綾ト云同是
ナリ式況ニハ顕文綾ト
ケムシヤナト云コレハ文ノ
出衣ナリ蔓草ノ紋ノ堅
文成ヲ用
ヒ此ノ暦源草ノ花ヲ云
文ノ出衣花圓ニツムル
ル

姫君の所にまゐる新うち続いて毎月姫君の方へ
あんかう風をとりうせ給てけさ
えもさいぐわつ続くしぐわつとけんのとぞ変
ゆゝしきまでげげ有しかば姫君の
うまれんとこのへと思のべて心ぐる
三月あまいうしうでもあんひめかれ屋
いでおとそんとこひ給へで人ぐるひて
陰ぎの風ぐるまいつしぐ〳〵うぶきことよ
あいうとかどくくてくそ吹ぐわう行
にしぐふれとのうひよりびして行ふ
どうぐ〳〵しくぬうやぐられ

ワクツンノ
ぬかのそぐとこひ給へで人ぐつしよ
まそてみひくまきされそうれわてる
うちおろしてそれしぐいかこれいくこと
シンヤリン
らぐしとけくまんどぐさくこのかとぐれお
ほとこてまそこうあのめなう心ちして
姫君ハ信ヒトノ心ヲ一ナバ
うきぐ行ひくきされうそやうあり行くそ
心ぐかそそ筆のさうちえ
けこ函やようきやそひ給てうさ函と
すぐれどのやてくさぐまわてにく行
れうちつきそやし給へ
偏者ノロツキ
三条ノ雲井又友切ハ
見さぐ村のてまつたもわそ

まあくちそしれぬ恋ぶこうかや
よけけ行へれどく人こうこのあるもうくれい
ろよこそこそのへ行れと男ゆさ猶ゆかうこうのの
多しこわらざろ行るわやいぢくの那べれ月ろ
の京よるどうやれ人ごよしとぎくあるこ
えて心とくづくしもてかさぞいとくく
きくけこしまこしまこしけ
よ行へれくかしこさわしまこいてくろれ
こうれぞいぞんるどようちこめさてこ
らそろとわうこくこうぞゆしじる。
もうこ七行とくこみそよめこれ本帳引

かとこるどもこつ京れかぞしこひく
へまかしくて例しぬゆしのつぬ心ら
れどちよれさどのこそとひまて
丁のかころびようわうしぬのそどちる
ざうこうこうれ行ぞやとうちこしこうく
のこけくまづかこのわやもしこぬ行
よいと心まくるうもの多のれぞよこれ
まづ多けるいこづしこそ赤の川ひろげ
こうやうこいとかこくらいこやうぐ
ちうぐよ心づるしかとくしどうわ多ぬ
さうこほのこ年しよ又こるかくちい

海さわぎ波へうちあがりしまてさうはいか
らんとおもふれとつうさきくれさる山吹
といとこうれしく変の姫君やうへんまさ
うさ（石千ノ）まらわ咲うろて風よあひさらにか
いしくぞあうしとありひさへらうて
ほんくとこよほうもてあけうれとをもしや
（連枝ナレバ）さはけわぬべうい程あひ原ノ屋ぞそくのけ（ヒキナキ）
ざやうあうこそ（実人ナリ）ぬくうれあどこうよまあ心も
（ア）ぬくうくこ心ちそ（本文）とど文のれはもよ多うれ
れくのどやうれいとこのいしれうしさ
わうくあどいこてよしうふくどもてあし

けうひさうぞくごもさうあうけうわよ（紫ヤ）
いうべくしはけうぞうちうさ尼君うち
れをこぞあよやつれうぞあうくうう前よつ（本文）
けてしさうこうて（ザラスニシ）食ううれ円れあこ（カ）
（歩ノミニイニ）多うあつうよあとあぶうあど多うてのど
やうれはぬうわ尼君（本文ハ雪ナ）と久しくこ年
ぬうはさまうきこうてうあさよなうされ
（ア円）いまひはの程よ多うぞん心づうしはぬこうしはよ（ミヤナ）（心ヤトし）
てはかうくあとうくてあんはやうあごそよ
くいこもちはうまは（姫君ヲ思ト云ん）さはあうれうしとさ（サ）
ようけてし心のこあんけくうれはれうあどれ

心とけぞこひとさきうう色そのおくで
心うくてせちよりも実はれとぞ思はれぬぞよ
しいとあでうあるじもあまうけはてもそわ
づひはぬとうは(実はてわひおくで
あるはやしじもあとうたてさうは
ふやうやうとれおくでそれあんこのき
とよあんはういそはんせさんと実はは
や

ウナキラニ潮雲ニ郭茅ハ
ヤカ三重ノ光ヤハ見シ

イモニテイキニヨカラ小野山ノ
上ヨリツルウトナシノ滝
トミカノ人目ツミシエキカテ
トミナガレシウトナシノ多キ

△行幸　玉鬘弁七　以哥名　源氏六十二月ヨリ廿七ノ二月三月

かくあはしいはてぬことなくいそよしんと
もとおがしあるひおくへどけとあるの
ぬそうそいとくくられるのうへれ
れもそうはてるうぐしかう
ぐこれあるしうのおとぐるにとるつけて
しさんしくもうくそうしもうしはなう
うはのこととおぐはあんだぞおどれし
れ心ざはとうてたしはくはなくけざやうあう
れもてうなのどのはんようつけていたこ
ぐまもうもやうはるどおぐはくそれし

とそよ大原野の行幸野行幸ト云とて世よりあり
人々くさくさぐさと小原院よりわれこそ
ぐ引いでつるの冷泉のみよ出給て
朱雀より又糸の大路をにぐ（豆ノ小路ヨリ横小路ヘ出ノ事ナリ）さ殿よりあれ
給うつ月のもとまでぬ人車いまのり
行幸とゝ人どうるぞうしぬめ
とゝ人みこうしら上達ゆし皆心とに
馬鞍とゝのへ殿ばかるぞひのうら
人々げ人々ら人々ぞうぞ給てゆづる
おし殿方大臣内大臣納言よりわしも
こまりてゆしぞ殿うまつり給へ給のと野ノ行幸ハ

ケフホトミナシ

父のよれさねえば（ブトウ是）であのそこうまのを殿どく
立位ゝ位まで言うぐいきうげく
手ちりてそのえへのうよみこ上達
アゆどたるくづい給へうはゆづしさ
形のはよそいごもを殿ゝけ給殿清のたゝ（ダイナル）
飼ごしくまてせよゆゆしねそり衣とそ
ぐれきつ気父ゝとゝゆづしうか
きゝとゝきをいゆてのくゝしゆくそ
うなうゆのしよもこき車ゆど輪を殿い（輪ヨヤ車ゝ）
じうれ長げなうしゆりうさゝうし
とゆどゆしこのゆしうゝちさ殿ゝのさ

近ノ江近ハノ役官ナレバ六位府ノスケ〜下ル

差別ナリ

行幸ニハ中メシノハレシカルトゝ

舟ニナリ

車ども
ぬのうへ
そこら
いとこと
なまよみうどの
諸官ハ青色ニ赤色ニ
うこさなり
いまゆべき人なり
わがちおとこ
ぞめとつけ
まげよさわよハ地
と人よそぐ
のうちわ
てうちわやう
きこえ心うつそ
供奉人ニ
物見給ヒシ
ぐやうれ人
ざよなぐひなう
氏のおとこのれ
ぬとこなりのいな
ぐやうさ
ぐうわ
ひとなべいも
れに母のよめ
ことなるやう
えしぞくち
文もおとこ
冷ノ内光ニハ
ミナ其外キ心
冷ノ原ニ似タルコトナレハ冷ハ一ツ先ヒシ
冷
冷
サラハ
冷ノコトシ
冷
冷
冷

しめくもりくのようそいとかはやさてや
からひかどよいてはけるまつ行て多く
ろくひけがちよりこうしていと心づきなし
いでそうはいの男ハ女ノ作くろひそうかれいろ
ありよはにくうんいとうなきことをわ
きれ心ちよはいとかとくいらす行てぐうかなれも
のおぼしくの美ハ内待ニ出シ申サントヲ玉フトアリ玉ノ子ヲキ文ハ
人と心よもあてこうきいりさ海ちや
とそひてこ行ふ天子ハ心ナドカキモシヤト玉ノ子ヲキ
ごとばもそもられて大こまはけるまつ
はけんせられんとおもうしもをあへくそ

玉ノ子ヲキ

古活字版喜多川門野行幸有之如此是ニ

二ちあ行くるてはをよおうちあつきて
れこうとぐあ上達アのしくだわよの多り
れさうぞくうしなる形のれよそひかどよ
ハクレシ花ノ枝ニ玉ハウレシ子ヨリ望ツカハセ玉フ
ヤ子モナリ業堂ノヤウナルモノトシ
校勘ニ
業東ニ
原
かうあ行かどよい系院よりれこされて
ぬかどをしせ行ふしけるまつせ行ふ
ぶくうてハれ行くさあうくれどれぬいこ
れのしと養せう物行ふあうくう気べの
原
原
リラウド
原
ラ原ヘ
ヲ業ヘ
左南つの前とれ使うそきて一枝をせ
ありあ月せどとハふよ地式ノ業法しやさわしのこと
まもぶよまでちくなん
浜
宮ちさそはの山ようきどれぬる
天子ノ御足ノ有ケシ此式ノ書シルサス
伝、昭宣公大政大臣ニテ
御供ノ例ヒバ
原モニイリ玉ヘ
トノ哥シ

オキナサヒ人ナトカメリカリ衣
會計トリタノモナチリ

行平

き物とし侍るよ例有地大政大臣のうふ
ぞれ行幸ニ侍ハ行幸ニ服宣公ハ供シ侍今大
政大臣より
どやうのうんおとれたりつう物へうたやか
もてあそ物ハ
原
ゆ原山ら代ゝ清華ハアレドモ今日ノ儀式ホドハナキトシ
でうあう物やケフホトヤナカラン
ことのそばくゝ石ばなん
行幸翌日
まいれ日おとゝ原
せ物いてきやう文ハ内侍ノコトシ
やと宮し物へう
とけうあこ原
石ばなん
名ノミヤヤスシ
有ヒ盛ハアレト
原文約
今シミテハ宮ヲハ
例ノヤウニ
近ナク

行平

物ぬがおしきとこのひて恋原ノ雅童ニアメリカルシ
こうしい物ぬしくしもしてしんれりの
れと覚えそれこ
玉ハ仕ニタカラトト
ら原雪ヒラクフリテ空ヲキル如クトシ
さやうそのの光やしこ
ことぐもなんとあうとうへしこれ原内侍ノコトシ
さ
ことそ天ノ字仕ノ
で原天ノモ原イトリメテ白ニモラ
原ノ不
とぐよ
なのどこひこぐう
天子ハ宮仕ヲナニ
こうしまうんよこぐうこいあう

箱遺 家持

ヤキエシ雪ハフリツヽトカスカニ
成家ノソノニ豊ソナノ
今朱ヤキラレハ雪霧ハ
キリノヤフメリメルサヒ
ツモテムキニテキトカキ玉て
ヤシナヒキヌラントアルハ
玉ハ仕ニタカラトト
れ
雪ヒラクフリテ空ヲキル如クトシ
天ナラシテ
今ラメレアニミヤ
文
原内侍ノコトシ
原
原
原

天原ヲ天ニ出ルニカリミハ
ムツヒムスヒトスルヘキ

うんてう人を用のしてえうけしるのて
ふるもあしとの給へ世上ハバかれ人ノコトハ不知サクラ
きとこそもつとも心もて家ぞくへいうん
こそいとさうるてう心ものめとてわひ給
いでそこにしもぞめぐ今ハ
てきこれくし
朝日ノ出シトテ先天ノアキラカニ天子ニ比メ云シ
なのりそいしくわしそよくぬとあど
天子
てこゆさしめとさ雪ノ霧ノナギルヤウシ
雪ヲ云シ
てかぐてぞすめ給ぐてもうでも
まづれもぎれとそしと云てそれは
うけのれでうどのこ海ゆるきよごしく

天子氏神天照大神
藤氏ノ神ハ春日明神

えんぬ給にうれのくさかれ心よいとも
もはさぬことそぐるものづくしけく
いうしくあうをまてられるぐにも
やてこのれのぞうやそをりてまとと
おぼしたいとめぐ雨せきまでな
じうえくて二月ものしさて
こくるぐし給べき花のぬしくのれしそ
やとてこのりおそうのぐしぞ
氏神のれしるどこのしぬ花のし
しそ年月しまうこ玉ノ子ト玉シレス
おぼうこと玉ノ子ト玉シレス
春ヲカリサメ年人ナトモ
誰ナリ
世別人ノコトシ
ムツヒムスヒ天照大神ノ
春日ノ明神
天照大神ノ

心たづねめぐさしたれのよ（ツイニハ至ルノヨトアラハレ）てやしまさ
ねしあはれさ（カヒナキモノニシテ当分ニギヤウシテ後ノ名ニテアヲギナノミメニハ）くわざくしきさ後の
名までうそのうつしをくさきこんの（今改テ後シレホドナキ平人）
さしそいまやうとていうらあらむことよ
なしやそさしもあはれなどぞうぐらそそ
（ホトトギスノ鳴メヌ（キヤウナヒ））あやこのれ契いうゆべさやうなるおかなるくい
（原）ぶが心ゆうてとちせなんみどあばさ
ぐあてこのれ（モギハ命不定トモ三歳ニ不限トモ）うゆしよいうれあとぐとなんん
れせうそこやしれいろれど大（カ迄ヲ）らやこぞれそ
れくしうるやうれとさくよとこうれし
ぬどうるよあらくせてびへふうくさのし（カ）
（キ意）

（原）ぬて中ねのあしうひうこ二条よそひさて
のあて心のそ（ヒニシ）なくれーあてありしさ
というよせまーとあばせせしいとさうあく
（原心）
文もうせさせれてくれびくあうべさとてぞが
かそあしれてんれこあうさことあばんん
（原）（世）
おもせうせよはしとあうとうあーし
うあて三条の文よれこあひそあわうれ
びくまあて思（原）びやうよあうまひ（原八改モ退隠ラルノ時）ひれへどうゆ
さよあ（天文大災后ニテ）そうそかくいよくえとと
そ人れ（原）にうるびのひせようしねしちて
あびううあうれよいとれ心のあやま

さしうわたらて心ちしてあさましかれ
ばうそくようてよとけるしどもわがいと
うくおもし給ひ（原羽）ソレホドニバ　ういあそうしまさうらけうと
ものしれ物ゝの心まどしてかどろく
きうなげきおもしさうをもしいやうもなきせれ
ようとすれどあはれうかはおもせつる門かど
おもしことあうれいぞおもさ限し年月（年月）ぞれは
やけはれるうへとかくてこのうはしどろ
げうかくこうしかくこうしかくこうして行うよ
いかどこうれうわ海さうくへうへぬまそてぐ
まうあうくたやし（海ヨリヨイニサル）昔し今し行わしどうや
（天王寺仕ル人ノヤウニモナリ引コモリ）（ノトカニイトハスカリテ）（腰痛ノ会）

そくあれしくこうきしかけよそふものうさうあん
ばうべさかどおもし給舞の花のれあやとふ
（ホシ五）（ソウヤトコ）（ブシカウニ）
ぬうとうとうとうとうとうて
（五月冬ノ人ノ）
くうのこしくなうさやうもあるはしで今
（ホシ）（ホシ）（大文）
（ホシ）アハスニ
くてやうと心がそうくこうふ給へけうとふそ又
（ワカレシト死ナン）
そうのしあうしらはれいまいあ
（余リ）
こうしべきはるもはるぞさべうくうとはしたう
（故左大臣　菊上）
くれせのそこうよあうこはれうぬびと
（ナヤウノ人ニガイキ）（大文）
ものうくうていとこうがいきとこうづこなうとこはる
（後世ノツトメ）（来世ノ）
うぐ土ちいそこうとあんこひもよかさ

社行うよこの中ねれて衣よりやもさ
まぞこひ[大言]つひ心どさもごの紙をふ
ふようへさうぬくよう[命ヲ]げとぐれていま
まぞかぐ[存命]じさ行るとうぐあさるなきて
ぜ[大言]心のようくくしおこがまし仏しどさ
こそしうしだいて衣ようれ[原大言ト]のぐわだ
むしいまれごうわあまあ紙ぜいぞう
ごられ[ル]ぐ[ル]ハ日[ル]ぐてぞ糸紙とさげ
うんとうれわぞよ[ル原]射面のあるいる
うけうんいぞあ[玉ノ]てせんとこうこの
行うとさうべされいぞすくていい射面しき

ごうくれしぐ[初本ニ]ぬつうくてあんと字紙
ぬ[大言ハ]やけごうのちげさこうやわこうれ心ざ
しのうくらねうあ[ルヒ]ぬ[ル]やさしうこうひゆ[ル]行
らぼの[大言ハ]紙をそべきことおにざ海のことよ
く中ねのうあ[雲井ノ文]げよこうれ行うこ
し行うとこ[青]どめのことい三〇ど今いけ[ル仮ナニ]
ようもてあそようけて立そあ[ル]石の
うあんさるぬもしあぞおこがまさや
うようんうていせ人しいひもそなるかと
などぬ[ル仮ヲリ玉ヘドモ]ぬ行れどそ[ル心]たうこうしし
ぬいとうけうきく人のゆんぜうて心え[大言]

ぞうんこ[illegible]ふるとぶ[illegible]ゆるのれしとあ[illegible]
ての[illegible]へで[illegible]玉フイハント思ヒ[illegible]ハヤ院ニ参通アリシ立ハ[illegible]
よゆしてそて[illegible]ことものとき[illegible]
家はさんなんうそめ[illegible]
きびこていきあ[illegible]
こまでことともまぢ[illegible]
ひ[illegible]てなんよろげのことよつけてさ
あとふこと[illegible]
しきいれてざんとい[illegible]
[illegible]にごあのそ[illegible]
ひべさ[illegible]

ごとよつけてしそ[illegible]
めこそやそく[illegible]
あどロ[illegible]
ひまごふこと[illegible]
そのあり[illegible]
ふうばあれ[illegible]
ことしは[illegible]
とうごとそそ[illegible]
おさくひつ[illegible]
けうとい[illegible]
らくやうあ[illegible]

人々ていうは所の
女官おどしは
つぎつぎのことぐ
ふとぐいまう人
二人ずつべきくぐさは
うぐぐえもせ
くゐんのさゐと家
らで家のいとなし
きへらわなりさよ
くれえひそい
のらくよりわのぐ

ぐゐべきしなしとあ
えくせたくんとうん
あとにけのきと
しゐ文ぢくくうべき
ひとのび出ろそ心
やけざ後そ前のこと
あごとれとしさと
ぐくくぐ文ぢくくといと
どなどう文さしあ
くこそよろけのこと
たいでよゐんよ

トメツスヒアハズ
ことぐ内侍めし内侍尚ノ変ハシ
内侍尚ニタボウ人百人余アリ
内侍ナケレバ
文ツカフノゲタトウモシ
貴ク才学ノ人カラ
武家ノイトナシジ心ニ多キ
家ノ宣サヲルカラメノ人
文伝ニ
才学アル人ハ
貴ク
内侍尚ニ
文伝メキ人ナラテモ
サワリ
内侍尚ニ
種性シ
玉ヲ文伝ニ
内侍尚ニ
文伝ニ
内侍尚ニ
玉ヲ文伝ニ
内侍尚ニ
アハシテメルヒキトミテモナキトシ
玉ヲ文伝ノ
リレセ
内侍女房ニモナレラアリトシ
ツキ
モツケイ栄ニ文伝ニ改ム
玉ヲ年ホト原ナモフ

れどうれいにうつるあんべいしとよあんもうりうを
いうなべいしとそしとしかのうちなかうも海かう
行くにいそのくてい射面行べきようも行
ぞやそうこうしとあんとあらしかしべさ
やうとこうひやぐらしてせうそこりうをはな
やしまことつけてゆうげよそまい行てし
げよあうしもじんあうこんじごまわ行よよ
うちうしぬせう勢れうしむれうこんひとこせうし
にいそのとあんこうふ行つうやうよだんく
ぬきもぬ行へとせまし行文いうよくく行うこ
こまうかいこまいさ海ぐまううなのうもう

くというふことなうひうひあらくまいう
なう心のてうくひさたべこうあしらう
じじうしうけうけれうわてなわうあとさ
こし行へだうやうやうしうくうとなうくうさ海い
うれあとぐしもものづう彩のあひてへく
だくうさいあとくのあうしひよにうとと
行れだのうさんようけてもうもうくい
ひけうへ行へとと中ねのれにまぐにまぐわ
きまへうても行うくへうしそとさせれまぐ
とれうらぐうちあしれうらのあいとのまし
くこ三条の文よあうさおとぐわうわおうも海

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるそれ心をさうしてその御ことを
こひしう思ひまいらせ給ひ
おどろかしもしたてまつる
しぬれにあやしく心ありしうしと思ひ
給ひおぼしも別面をぐく行あるそらや
こぐよこぐ舟はけあり乗りてそ流れ
きよきてこぐあかどえりてはさぐぞ
く心ことよひきつろひてごぜんかどし
とくとうさぬまいあでわるれ君ぐら
いとあまこひきつて乗り給さ海ぬく
うしみ恋しうしげるうしけぶらをろつよね

けうらわ
夫をつぐく
まそ万水を
ちろう

しかよりとさうもあひていとうくよお
もちあるまいかと大臣といとんようひ
給ひて君ぞあのぼるぬるさられたるさ
孫いとあがうきて語ひうきて少くことと
らびうれもてあしあれきくくしとし
給ひて宿よ乗度くさんのしれさのかを
しいまやう多のれぞひきうるてをどけか
きあまきをぐいいよくたとんりのか
え宿そ海まわ給へうたてアリニてるひきけく
ひ給ひてうれありうさ海るあぐぐひてもんて
給くぐちうらを君遊つぐくよいと地さ

げなりられおしらひとそれどい近て変だ
約をぞ文だ丈おじど今し実ゆられるおじも
官にスミミヲシ
皆ゆり上てゆしゆ近をづしわざそしあさ
よあ上しこくやんごとあさ度ど人家人頭
大位の家人近侍の中ゆ格ゆる弁官ゆどひと
じをやしよあべしさ十余人けどい近へ
れじいちうつきぐれくしあくて
くけなまこるあびるじ皆ひよあろ
てをくうう幸きいいべよをれ近へら
れそこ後と物語よをてうあとぐいづし
きれ原トスト射面よしのことあ上れて

そくそそそてちうあさことよけけて
アラワレ
ゆどまきれ心もをべうあれさしひさ
ワカキ
こ近ていうこいよと長あることれを
くあ上てれいのへどそるく昔いまの
をしうごろのれ物内よ日言ひれそ
らけゆどをあ年ゆ近さてでいけうろ
ゆべうろとやうあさよをべうわてうけ
近ちをぐてまうくれ考変所様アラントやそそ
後しとド近よんだういこあさぬよ
なんうしとつふとおゆく行うなど
ちきごと近しよ雲ごのとうやとあ上せ

八重ナラフル
商山四皓変

ぐわうこうてう（こ）ゆうこうさぬよ
てゆしし（番）ゆししうあはやはるこれ
ことようけて心のゆぐそなくだかれし
ずしうけれうもものをあぐうやうに
てあはやけのれいうしうとしけうこぬ
つんとなんこうかくしと求れせとあり
てそれこそ（者）ゆくしかのうさやうかうこ
とうちまでつ行ばどうちくれわく
うごとよそいあはるれ心ぐいさうよ
うけうくことあくなんあよこしあくてた
あり行年（原）よるをひょうくていはのと

なんぞしうわうくうと射面（以下重ヲモ）れうとしと
まれよれこ行しぐ（関白ニテナリ申ヒテ）とうざうわうてよ（寛ハイキ）
げされ（特ノイセイリん）うまひといふあくぐこ（第キ十ニテ原ト以ト）
ちさ行よいそれいさほひをもひき（原ノウラミモフナリ）
てあ行てそいぶひめしれてあと
あんうう（原ノ方）ひさうくはと（原）行くで
ゆ（消）へいげよあしうれてはやまこぐ（ノウシイイリトカハ）
ちきまでうしさひ心よつぐうこと
なくけんぞ（初帝ノトキ）しをあやけよけう
まうきさうもの（早下ノ辺）くなくべうろぞよ
しと（北）ゆびはうで（原）うれ（沖ヨリト）うこと

そこらぐしうぬかしてうら位よと
うびはてあ月やけはたらまつて行こと
よそへてしそ行へてぬよい行ぬとよもひ
のたもうまいけよそづうらうりふこ
とのこなんあ月ぐ行うみどうこ海
アドはそのたこそよかのやし出れいて
行ろあ月ぐいと表よめづうなることめも
行うれとまづみあされてそれこと
ろいうあうよ行と表ひこひめし
う海いなよ表品定しきぞよう行へうれへよて
ぞもし実しやこそ心なへし行

いまそうへんぞもなう行うよけて
こうぐしこぬめどもれ結ぐよひ
てう海ひ行うとうくなうくこぐて
とこ行うよたはけてしえさう海よてぞう
ぞよたはて物てい表よこひうへらてあう
よそへてしまづあへこりへたてとの終
たいでようれいう（のうま乗れぬどう
よえこすうしれしづとれさめよあ月
しゆてうきうこもうひこみかけこぶれ
行ひぬ乗いうふけてをくあづれのふ
月く年うさあひてこうへくなわぬう

世のうとこのくにうれて恋しさこと
のあびてこさよ立人心らしき侍ぞ
こそあさしく心よとくおそ海さぬ糸
慣しきひなさしやうらきるれ給家
ふしてはかれしとそ世のれしとそ世うよいわ
しよ海さられあるぞ海いさうひとをもち
れよあうぞるしくうぞめぐくさほぐと
なうさ行あまよ衣くげよ心とすうるろ
恋いでなしど中ぬのれしとというらいで
れそぞうぬひしとうういなとと
ぞうとそれらうれんとしくわ

ろくおぼうてあうれあぐそくくれ
さなさるきるきぐしてきそぐよ
ひそぐれしろ心らし行へう乗れいこ
もよさうぬべさとうちつけよさくぐく
もやとてなんれうみのしこまちいとさう
よなんふうべく行ると戸並人ぐさうぐ山
慢なやこしうろしうこし行とるそ実
一日たぐへさそれそわうあべさようさ
うらぎうれれ気ぐしようてとのく
いで行ひぐこいというあ者ぐられと
との人ぐしあにとうこうんぐてさ

ぶらいうんよりとれいらくさげまりつい
へいかりうんいかりつけきべきようおどひぐいえ
としてうろそぢといこのしざわうなぐ
うけつけよいとぐうう心もとおうえて
ぶへどやとしうけうわやうんしびん
おくうんあえぶへてんうちとうつよさぐ
そて心さよくちうこうとちおうちぶうごとなさ
うくとちぐうわてうけどわてとしさ
くよいもておきぞぞそうらぐうう
とも学とえてくあうしおうあうとお
ぼそいはあうしうれどそしうときぞとそぐ

さくうくうれはあうよあ
ぐくえんよおうぐ
ぶはうもをもいひさ行てぐせれおどれお
がうんとしあぢうさうしあぐせどうし
くしぞうわの行れうんとさてとたづべきこ
ととうとうとうばけよあぐしうるくれ行
し二月にいうち比ううち十六日ひぐんの
うしあうていとうきは日なうらうう
ようさ日なうしとうぐへ戸ううちよよ
ろうこうあううませぐいそぐうら行て何の
ぶうち行てしあぐよ戸あいそうぶはぐ

ていとこ殿しるべさとくしを（実し給へ）
衰なるれ心しあやとく実しおぼしなわぐさ
うんとしあばそめしていとなんうれしう
うるぐて後くゆ物の考もしあびてうう
しの心とのあひもそそぐうはやしはこ
ごもやしべううわとこうはそうことし
とあうようれたしあるさくのれそさ殿ふうし
ばうとしあるどこ出てこのあるざうはう
しとよしとしばしれ
雲井ヨリモ玉ハケンキヨリモ（ト）
考ん思ナト思カ
ごう祖母ら けうべきなりうはうとこ人を
しとそいをぐうきいまめくしさかうしく

居ノミ恋ニカケラノ玉連
アケムットニさ文日八十七

てその日よなりわてて三条れ文しうあびやうよ
はれうひあうれぐうれてこおど紙りしどこ
とごしいとさうあうしよし給て人みい
まくを左しばしさうさ殿とうふうとそ
ふうこうてしあうこさ料理中名ドモ
ふそべうやうてなん義ようけ給うはきうめ
うはそうとうはうけうはうはうはうはう
こうはてなん
実モ木麦ノタイセバ
ヤ
ヤ
ヤ

まてことくしけんじきしら行あれば
こ行みてご覧いうれやこそきすれど（ホメテ）（ホムル）
しやこのれてよしいとぞよしれけり
とうよそへてあやとくいゆくれよそうわ
れひとくれひわるひよいるかどうれを
しこ行てうくしてこ（ヲリテ秀句ガチナ哥ハホメヌヲトコシ）
るかこ十一字れかうよとそこいくなくそ
てうことのこさこ（大事ノ句ヲカケキン）
中文（長谷ヨリ也）ちうされとかきぬれさうぞくれぐ
しあげのぐかどいとにあて何のつが
ごもようれうさ（方ノ意ヨリ傳ルヲ云ニテ）の心とようわかく

ちり行てれ（サキテ方シ紫宮花数し）ぐ宮心ぐ（元）ぐ
のれうようわあさまうぞうぐよこいで
行てうさ海とうぞうぐよこ海ぐよひ
てさどうあのれ心ぐをごもよいどこれう
行てれしかうこうとあり（二条ノ）東の院れ（宝塔ナシ）
うれいそぎいさて（玉ノセギノ）れれしうあひあし
行あべさうぞあうぐのどうてうそぐしう
よひうれ文のれ（手摘ノ夜）いうやうれうれう（ケフノ玉ノセキニ）
うべうことれありうぐうねこいのれ心そ（古キ）
いぞうれいそごとそれうこいうそぐ
うんとおぼうてうれどうんこいで行う

義なるか心ざしなるべし　青鈍服者ナレドモ用ル何アリ

ぎぼうしのかそか

ぎぼうしのかそかあらぐるこうやのよしうやじう　法ノ名ミクハホドニ文若果色ハ紅ノコトシ何トカヤハ色モワカズフルキトミヘシ

しのぶもぢずりこうもはけうあらせのしうまよ一ぐ　青ツリ　合稽ハウフツケラル

ひさきのてりこきわみゆるわらはのれこう　紫ノレラミキハミ名ヲ云　モミアヒシラルトシ

ちさとおさき衣ごこよいしてけるいとう

ふるうてをれ紅てけるいとう

べきうぞよも後ち孫ごけるまりれじて

ふあうくこ紅へみびぐてうんこれとけの

やしれど人もれたもとおいてうか　石仕ミモ

ま原心ぬしんごつけていとのさまうう例

のとあぐそよれいかわこぬけやしきう

人ホリムミ

人よそなれくぬけこしうくと引

いわころをいわうこうそまけきうすぐよえ　まこ色文ハレエトし

らぐすやとそくへ　まこ色文ハレエトし

すくこあんちみこのいとうあうちれけう　末橋ノ　ヒキキし

こ出しくくよ　シリヒメハハし　おとさんくいと心ぐすこうか

ちし実し紅れこうちきれ枝よ何のおかげ　カラ衣ノコトし

そられうくありけう　末橋

衣子そうこうしけきこうえむ被

ようしぞとあり人ぐけ　アレキトし

しとけうあうきうぐうこうこ　シカムん

うこうこきけ　エリイレテカクヤ　エリイレタルヤウニキ

おとぐいくさりのくあう

しさとゝえ物人ごゝ物ゝ
じ狂そまゝてゝいま
アつゝんとゝいとゝ
さくゝ（モギノコトニテ）ゝくゝ
人のこゝゝ（イラスイラ）ゝ
アゝめゝさゝとゝ
衣なゝとゝてゝ
このゝそゝ（カラ衣）
せゝ物へゝ
てゝ（玉川）ゝ

（俳諧ガイタル由ハ異見モシ名ン）
（赤ムラ紫（ヒ）ニ付ケナツテナカラナカラ）
（原ジヤキヤウニ）
（同ノ時ズミテヨム）
（来橋）（スキテ）
（嘲哢シタルヤウニ来橋恩玉ハントシ）

ゝれとくゝ
あゝゝや
まゝさゝ
くゝゝ
物へゝ
てゝゝ
ざゝれ
けゝゝ
よゝ
わゝて
物て

（ヤウカラ衣ノ）
（ケツカウニ）
（原ノ）
（原ノ）
（ボンヨノハ在ハ）
（新ヨハ人ミエテククムートヒバウヤノ）

例ハ花ホトヽギスヘラコシハ
所ゝわしをそうゝやえうせてかしさ行よ
もてあ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝいうゝうゆゝゝ
ゝいゝゝゝ

うちつづき人ごゝろなくたゞしき法師
だにさうぐしなまくしき法師だにさうぐしなまくしき法師
くいるおそうて行方をいかなることゝ
うらゝかに思ひ入れ殿の御ぐしの中ゐ弁
ぐしわぞかの御ぐしかたちぞこと
ことゝうらうしうふかり法弁
くそ打出ぐしわらとさてゆきさて
なりかゝるのれこのみこゝろあり中宮れ
ゝひよそて法ちんとや光そんあど
とのくるうとさて法へどれたゞしい
心づひしてせよそてあきさ法よ

なりて御さう法へかにごとし心やせこいかゞの
人そこうぐしうぐしうぐし

あれど又ことくらへよるくせさせて大変
れたるやうとつけられしなれば
とくしきれいのそびくなし無理文面
しとつけやうと流べきこゆるしかさ
若香色
としあるうらやましく流へどうらられ気
内侍ノ
又あうことをくさうしそうしまくしあを
よてこびてあるのとざ海のといこもう
くしたさぐしべきとぞ安しさん流る文
心
なぐいの方ーきはといぞやうと又
うんなまういなることうし流ぞうう
きぞとくこうもてあるーあるこあど

中に心ものしあり意ーうこうあし流いは
れ美しまとよ意ものもうあ世
うよいさぐこうあうことれさはあし流る世の
人さよ意ぐこれとぐさぐとせちよ
こめ流へどちらさぐあうこわせれ人あり
ぐもんよいいなしーてべうく安し出ると
しさぐれわのあうこてせれのおんよ中わあ
ふひ流よ生きて成れしそあまうけ
流へうあれぐやいうあうくこの
よもてなくうんさけぐれしおとぐ
あうとあふまげせれうこて

しとあるてゐしの於しぞ申ねる志ろう
しばらくべきゆへそゝ行めさてした
がひしことくゆ（心ヤリモナリ云玉フトし）ゆくゝ生於ぞ（ヨモイヤリナリ）
ゐていこのゐぬ世界おどしそこで
ひしとの於へじ（ゆ）ゐ（ゆ）ゐまを話きてゐる
かいしのこしよ文たくへ（コキテレニ）よといそ
ぎそこらゆしといさやうれ（内侍）へ（御匣）うこしや
とそそなべての世界たらぐるたうゐ
つぬこまでゐ（ワガト）りしたるまつしれ前（シ拍ニ）
のつくおそゐとうこうくれ
じうれりゐ（拍）ないゐ（ボリテノ玉）ゐのうぐなる

ごらそのぞまんとゐくをひうゐれ
がしけうくれとの於よ（拍）ぐらてゐ
でこされ中よゐぞゐぬくまぐふま
しうゐうゐ中ゐ（拍）のまぞたくゐそそ
さゐ（カシコヾテシテ）よむくゐて（ロシ）ゐあぐゐ於ふ
せうくれくそえそゐまぐさこ（殿ノ）のうら
れあれ（忘）しこくゐとゐ（ざ）ゐよ（ざ）ゐし
ぞさそこをこせ於ゐくげしうけしどいと
ゐ（キメナキん）あげよゐ（目レリ）よ（目シ引ハリ玉フナニし）ひさあげゐう中ゐ（思）
ゐくゐよつけてしげよゐあやまゐゐ（ニツコナイ光）
ゐくゐ（ゆ）ゐで（ゆ）ゐ（ざしモエシ玉ハメトし）やうゐてゐし於ゐ（ゆナリ拍）ゐ（内侍シ望玉フシ云）
はりナカスニテセ

月木記。第二
素戔嗚尊悪行シ
こ玉フトキ天照大神服
立玉ヒテノカヘキ庭ノ涙雪
ノ如クニナルントテ雪ノ如ニ
天地ノケチラシ玉フトキ
庭シコヽ巖トカケリ
れ兄ヲノコトナヒバヽヽ
引出スヤ

くうそしこ（ナヒムルヤウニテアザケリ玉フ）
よハ（ハ）もぶさ（れ）心とそ（ゴ）ゆてそいうく
さいこかしのし雪（ヨ）ゆ（ベ）（ま）（れ）ゆうさ
ゆしで（ま）ゆ（ま）ゆ（ま）ゆ

てゝ（汙）もれ（流）気多（流）れ（流）ら（流）ま（流）ら（流）ま（流）ら（流）ま

なぐさめがたう女はしれあるてのうてらわな
らミぐるしとおぼしつゝ屐しぬしつゝさ
ありしかゝるこの君うこそよろげまぐされ
とてこゝらひぐさよけくう泣へど世人い
カノミツコサトヒマニギスハシ田フト諸人ニトシ
もぐらぐてもしこのあれのどさ泣くい
ひらう

ヨナミ野ノ露ニマヨフ心ノ蘭
アハレハカケヨカユト計モ

△変裙　武蔵弁八　以哥詞名　原ホセノ八九月ノ変アリ

門伯のうミ武蔵のすし流れ文だ人のとをうれしく
僧心ぐのし流れしいうの心ありとこひ実ゆる
人の心ぐるようらとくまぐさせなわ伝しで
ケサウヒバ曲新ナラヌトシ
まてさやうのまぐらひよつけて心ようわか
よ心なうさことしあぐ中変も女はしうく
ぐよつけて心ヒトノ心ときし流てぐうくうくこあくんな
秋恋しくしうしうなうさ泣ようていぐこふも
大金ニテ売ノ折　原ニモ外ニモ
ふくこひぐでやられて狂もなくこのすさお
ヒロミヒルヒドモ
ぐしてこうでのぐぞこいしいぐぞくらくへか
考ノ心カケ玉ハバ廿字名ノ　又原ト通シテハ
ふさ泣ようこ実ゆうんと呪詛シ云　原ノヲモヒ人ニ
ケ号ひ流人ごしおかく

こくようけてやそうしぬとしこそぬぐさぬぬ
かげ一ニうまのごさ行のあるとごさぬぐよ
かしかしみぐれ人ニうしぞぬかげしゃうわうて
うふるこうぬしぬのしさこといなけれどひ
おとぐのれ心ぐへのしつしく心づこかこしい
うかうれぬるぞよういはもてもかしてくれそ
もうべうかうそぐうと心ざうくしぬうもけ
べさぬとれらくおとくしひ殿のかげ人而を
ぐうわれてうけぐうてうしかうはばや
ざ行べきことふしぬうとうるとてしうく
てしこぐううけぐこうさこぬうて心をる

やうへよもてさしぐうべさ月ありと中こ
けりや弱ひ月して後ことよもぐうるふ
元久しあさおとぐのえれぬもてかーとうう
くうへうべうんぞるんなげしかうるこび
ごとまはるぞこしうこうてしうちう
そあけべさせあやしあそせぞいづうこしく
ゲンザウナ
ととううげよいとうふうこうこれさぬぬ
うこうるよごとうふさこんくるんこ中
わされうん世のへよにぬ月のうさぬを
かるつ夕音れそのの長げかう元久とう
らくて又ひ行へふさぬいとかーそさ
軽服ナベ

大宮ノ遊去 多勝ノ宰相ハ
西条ノ間ニコモレリ

にぶ色のれぞ多つしさ程よやつれて何よ
うわうう多のいすしらいとをやよ
もてこやしておそとは前多うへごとす
ゐうそてんをうよ宰相の中ゐおあど多のかそこ
しこ殿やうかをそぐいうてえいまうさ
流へう姿ししまくいとゐまやうくさよ
そかうくうそどめうわもちやよ心よ
せ宇し流へどもそそもゐしてうとくくさ殿
そもてゐれこざわしゐひよ今ゐ
ざうそてこるゐくうくへしうてあし
じかとこそよ木下そへうれいうへいへだて

ゐうでこうう感れ侍せうそこうて内うう作ごと
あふさ殿やでけ恋のうけ流うう流へうあわけ
ゐ侍へうりゐうとうゐうしいとゐやくあて
ゐしれ、げしひのうりうくうくゐうしさよつ
けてしうれ侍しのあれさうれ侍ゐが心て
ううて恋しさをううてゐうそげよこしと
文ゐうそうて後よハ行しゐぬ心うそいてし
文だうへと大くこうしうそうれうでしさど
うわえ形ゐうれ侍しひごもうてゐうしさ殿
ゐうしのうでうしさうゐうぞ出
さうへとこようでゐしゐやこうう

内侍ノコトシ
侍ノコトシ
侍ノ
侍ノ
侍ノ

心ちもなどけたしかの
ものくもきくよりうてゆくよりさう
そまうしとゆくことをやしさんなよりてゆく
べきとゆきさしてばらくさふくんもそ
うきうそきてれはあてはらうあるよそ
ぢこまへくそくそうそこをたきくきうう
ゆけてこはやしよやしはうへのれゆくされ
このかぬそらとさうれ心しはあどやうの
そらあくへはうへくみあげされ
へふかどきびやしようけうとうつ
さしは花えきぶまのしくしけ月はぬ
五十月しぬはべきとはたなどあんあうしうゆ

十三はようくへはさもれはもせ
けりあるよしれこしもようつぬべくあんこひ
はうとまし行へぐたらい行ちんもしく
ちきやうやゆはうそそそくは
らめとれはけれくあどれくちきさは
とくよはまはくきてとともはは
はきくとらうはあるさうとけく
ませはうへそこうはしあびくこはへ
ふしきつしぬぎ花はんともいとは
うくはうぬとさてもはやこうもそるしぬこ
とのくこそはうしけれあるう衣

十月ハ不ル
誰ガ為ニ
フリ衣ニテ大宮殿ト共オミテ十キリ
フリ衣
服衣
フリ衣
大宮ノフリ衣

東路ノミチハ千ヒロと多千帯
カゴトハリモアハントノ思フ

武蔵野ハ袖にツヒリたしヒカド
若紫ハタツネワビニキ

俺ハ今ハ名間ノ雨ハ
タヨリワレテモアハントソ
思フ

のなかくいえそこ絶へ
へで伊勢すしこいと
そこ絶へこでこれ絶
くれ長なりわぎこ
りくれ乱れいと
でようやこひわ
をも絶へてりを
しれらんぞべきゆ
そかこまんぞ
れ神と引うこ
おのづ水

ソトノアハレシモ
ソトナリトモアハントし
と心づきあくうし
と引いて
名ぬるよ
ひさやうべの
ひさやタヨリ
ひとりかたし
ていつきし
実
ぬるやよ
タヨリ
タヨリ
タヨリ

らびてあんず乳中ねるの行きいれらんじ
きやくのうくよあどこひ行んず
おこづまーしくうけしこ迄へきらしれ中こうれ
まくこ今柏兄オト手ヲ出テ来ル人ヲ思フ
きこのこいあどきあうけきあどこ行
ふしてとうしやまーくあきこよ長とどる
ぞーとけよあどこ内やるあーこ迄とあ
れどうこここいてうれどうねありんのこと内侍殿ニナリ玉フトミテ西
やくくいりてくりつーと言うしで心う
きれ気多れなやまらそ内どーき心れ行いと
のづーれんじきるやーも行んぬとて

うれいそよいまそうもそこうきぬかし行れど
なやくくあやまーくあんとて入てて流れれで
ぞいくーすあげきて立れぬ中こうも出て
ぞうれとはあーきるけてもうれ行そう
みよーして言てしーけこひとうどうれぬ
ごうてもがのよれ思そどよいうんれめで
ようきんとやそーそうていまへよ多り行く
れで出れて行んうあどあーあ流人文たんとしぬ
くげよそう流へ小文あどの新へ行ーうく
そいと心やうきし長とつーしひあやま
流ようやーこ行あーんとこふよあん心ぐう

玄ハ玉カソラニ達ニホシノ
異名ト源ノ川ノ名ハ天ノ神
又衣ノミナクテヨモニテ
向ノ玄往ニテハ玄ノ神
心ヲキ玉ハンナリ源ト
玄トノ神心イトシシト
ナ玉ヲトタ者中玉ヲ

きさらぎ大原野の行幸ようへとをりの
ていとのぐ（源ニ似テ）ぐ　おもしろ　行わとそふ　ゆへ　わら
き人しかのうもしこをりてえもしをづく
れをらもてそるれじどこいてあへ（さ）しとも（四位ニ）
くめもしあどの行へじ（タ月）そも（蛍ナドヘ玉ハンナト同玉ヲ）ぬいつ（誰ノ方）
よつけてうたぐいてめしん中（赤ノ）をうあ
びなきをらえおあらまし又こさてん屋
じとあくあばしことそめしゆへ（冷）じ
きれ（天子ノ）いかうもも立（十雪　廿帝ニハ）びれとくそる
しめ（蛍）をくとゆんごろよ（玉）をうしあわ
ろをれ（廿帝ヤ后ナドノ）ぬ文づくへもわぬめしひこぐ

うんさ後ふれ（蛍）心をきれんもさられ（玉モ蛍ラバキライ玉ハヌトミ（タ）ベ源ト蛍ト）ひて
しとくあんさくあるとおれく
て（原ニ）ぬ（雑儀ナリトシ）やわが心ひとわがくへ（アニキ）
しあぬを大ぬ（ヒ）人神（行幸ノ大ニ）とそうしひあ（源ノ）
ろとれ心ぐるきとくぞやあき（ヒ）
人のうこあみくて（源ノ名ニテ）いうぐきわぐあり
ろれうれ（コレハソコトニ玉ヲヤ）ぬ（源ニ）ひ玉ーとれ玉れ
ぎちしうば心（玉）がそきき山里よあどやーとれ
あどくこ入（野心）ぬくもわぞとうれへーよ
いとあくてく（六条院ニ）しこぐあうあ家
よくぬあうそとてうのあ（ル）ぐしひとあうこ（玉）拾

ありとはきこえしかど
はれぬべうてとよろづ
めさうさましてさそはこうやま
らせまゐらせてゆゑひいやそしん
そえ文ばくもいとうくこういうしん
こうらうくらくきゆのあやけどかど
よもあはしこそもうぐそてうへの
はるひよ孫どもをはれ心よいさごふまずざかど
の孫ばかりきの人ばかりの年ごろくて
ちぐらに実し孫ばかりの心ざしをひがざ海よこ
そへをりもあるかはうれあるぐしさやうよなん

ともひけて大わらわのかぐさ海のたるわよけ
しきざこうらうもいかへ孫ばかりとあ孫へ
ざうらうもひてうこうぐいとにげかきことうれ
れ文づくへともあるごとをもれ心ゆるしてくるん
とあるうれへさ海ぐそうべきあれ三よそ
ぶわよそのかれどれわでどたづくてあが心よ
まうへんといえこまゐ
くよもやんごとかきことうりとの孫ばうら
しかへんじえそのそられへそよはわし孫そで
そそそそうようゆづけけ大そうれえづ
へのそばよろうぜへんとそうをきつろいとう

しくつじわつこと（リコンナシカタト ヒトカトン）となりとあんうろこびト（カノ コレハ実ノヨロコビニ非ス 紀ト）
れりとうとうとう

出ているあぼそんとうるさきまるうけ
ものうきていと強へばよ大きくれにうと
とこひあつひろさ海それおせうしいわさ
強くうとやくうるうら出ておしうわ流
しぜめやくもてこげめ流てを海とれ流
しれ高遠こえうわこぞ高ばへれ流のば
うしうしとをのく心もとあくぞ高うる
乳中ね心をてし俺しこいうさうしにう
ふとうらけあうれ心ふしてへどいおしう
よ夜のれ流ひうておしいうれもていでぞ
みびやうれ流せうそこあどしおしうう流れ

笑ナレト笑トセシテテ云ルカナ
月カツラノカケミカリレテ

ど月のあうそし東うれ桂の伝し庭ニアルトミ(文)柏げよくしてゆし
流てきくへくしあざうしを高流あく
うれこのみそれまへよ柏ノヨロ入れうこううしおし流
うんとうしれてへ宰相の高志使ニ
てへへ高し流ろよど柏ヲ柏ヲ柏ヲとえひてうり流へう
へづてあうぬれせうそこよそ流あうくねこそ
ていうど高しうそべしんみぞうそそぞうし
流うどうしぬたとひし流あうをいうどやこ(キヨウゼンレノ給ヌ事ゴトナレド)
ういめことあうしどこのうくぞそひ流へうと
てぬしとこひ流へうどよ柏(玉ノ白ト)辛比のれううもれ
へて高しまれうれどロばあやくうや(イツハリニ玉フ河し)煩トし

まうけなどしてあるさまのわかしえてゐて
あんぐまでこゝあれもゆくらしくまつさ
心ちあんしゐるとこゝいとまめらてあてゞ
し給へるやまうしくあげさうんれまてれ
かとてばゆうを給まゞくやうしくげよ
ずしさうし心ちあうとそかぐれせ
うそこゝしみびやうよあし給へいかどくよハ
とうあれそいとやうあやうし第ハ給へかど
れかいくうしさ内しえさうねとうらくよ
の給へんなんよしん給ごとしくへめよてら
まてえ給へこゝそさこてぬとあんゆゝ

いぶせくぞしうかゞ給りあて給ていで
まへでやおこゞまのしきことしえでおてさんせぬ
やゝぶしよつけてし衣とばれんゞしぐ
きべくやいをりうといよくうやうきしそ
ひゐうれまづいと東おどのれりてなりよ
きくしおてゞうくこよめいれて衣蓬こそ
めゞ内しくし覚がめしゆうさしづくへかどやうの
人ゞゞよううくしもゞやうくうこうへゞい
あゞしさ内ゞゆゞしきせかうし
とうくふきつて恨こゞけくうし給れ心
れゞ羽ゞくあんと実内ゆげよくへこそとおつけ

なうやうやうとちぐうの作り様よ年ぶれ
しりぞけくさとも
くなうこと
ゆくしくあんとうでをくこうる
ゆくしかれよ想まつぐゆくてうるげとこ
やうう
いもせ山やうきうを
とばたうでいもせ山へど
くうでうれハ兄弟ノ方トモ文ケヨウトモ分別ナカリキトし
ぐうオノナノリナシ
そしハ兄弟ノ方ノ
としなんえ
兄弟ニラ何度やう

あなうきまで大方のよとをぐうしもれやし
ぐえかさもれくぬるあんもの
こしもぐうしとかゆうしまうこうとなしぐう
ぐうウニカリ出ン
ぐうしもやさ後じこと行ろうやう
くうこそいうこうとこそ立
ぐうふ月くぬなくさうわうてそれうさ
しえんなうよいとあてやうさうげなうう
ううしてれかそれぐうこれぐうれ
やうよていとかしぐ寧れの中ねれけてひの
ひとうぬよハえかぐれぐうどうれしかうれ
ふしいぐうれうれうしひうんとわうさん

ぐし何のさうまのごきことどもうわしてめであるべき事なれども中ねとおぼしたれば
なれどけるのようにうつくしうて会はぬこひ
うどよしやきたれうしんじしいとようまやや
けのれうしろとあるべうもうきこかうと
かどうはんと学ばうれおとぐれく
をうはうとハスルー
をうとケ黒ニテハスルー
をうとケ黒ヨコラレトヲホシナカラ
をうはいやいハン
をうはうケアル涙ノ分別
をうはうの涙ノ思フヲ
うあうことよそと心えぬうそぢさんあし
ど風を吹て波立てぬ大ねくまぐれ
こしこしうぞかくうしろおぐしらと泣さ
ありてうつぎのれあるしてとやんとかさ

表書ニハ今上ノ御母ノ女房ニテ

ぞかうろうぞ三三の程よりしたれ方ハ笠の
上のれあるぞしすやの文れれ
命のかどころうろこのうをハしとなりうるに
とうぬをくぐやいぐおそうまし久とうる
とつけて心よしいりぞいぐてそひさあんと之
ア
それそらよりうろ糸れおぐいれとハ
ばけなくて
ろやしくけうぐれうあるうい
ぐぐで心とつくしいりさ汝ぐいと
もそくあしてしあるしうれなぐも
（とやうげよあ
ぞかうとうちくれ

堀ハ光サウシテ見ヘシカニ文紋

きしやうくらしさうろうしけれどもかつて
うぐはるのくれとしひけのことなるよとおも
ふれ海とれあやのれ心でるたがそぞしとこの
年のれとしもせめ九月ナガツキおしなわめそけ
れひそぼれえ人あうれよ何ふうぐな
ふれうろうとごもの月そどこでてまいう
れ空ごもをこれふことしなくてよこ史ゆう
ぞうりとさうれ大ぞわどくよ花くあこう
しきりをのうこさそ心ぞうよ

筑紫

ぞあくぞいとしせすり月ふ命とう

月ノ世伝傳之死九月討ニ命ヤルヲイ一リ十月ニ六ヲ内ト定メレハ
十月ニ五大内入ヲ竹

うう花ぞうあきぞ月うこじとあうはぐあと

玉藻 業方ぞうそし白ツ立ノ
今ノ世ヘ二ホナラナノこ

いとくあれあり色アマれ文ふひかき
せしあえんうあうそ

蓮

れ日さそひうあとそしもさくの第ふの
れと文ぞくくあん春しうよてぞか
ぐもしうしはわめべくあんとそいとしげけ
うこうこれのれれしかとうぞもて第ふれ
使さんぞうちわしや求アマれ文の九ふ
替しこれ上のれうしぞくま
うあのどれ君あうしじとのづうしとうね
のあれいしおていうじくぐこひらびういとか
ううこうこでけて

忘レヌカタノ忘レルトモ忘ラズ
イカサマニシテイカサマニセン

[illegible]

[illegible]

[illegible]

5